

- 増収と品質向上のポイント**
- 排水対策の徹底(周囲溝を早めに施工!)
 - 土壌の酸度矯正(石灰質資材を投入! 目標pH6.0~6.5)
 - 麦ワラのすき込み(地力増進)
 - 適期播種(7月5~20日を目標!)
 - 乾燥対策(出芽後は暗渠栓閉めを実施)
 - 中耕・培土の徹底(生育促進と倒伏防止のため実施!)
 - 除草と病害虫防除の徹底
 - 中耕・培土の徹底(生育促進と倒伏防止のため実施!)



時期	6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	排水地の選定	土壌改良	種子の準備	耕起・整地(施肥)	耕起・播種	除草剤散布	乾燥対策	中耕・培土 1回目	中耕・培土 2回目	開花期 (ハスモンヨトウ) 病害虫防除①	病害虫防除② (ハスモンヨトウ・カメムシ)	病害虫防除③ (カメムシ)	青立株採取	成熟期	収穫			
作業内容(注意点)	<p>過乾燥時はうね間かん水</p> <p>安全を確認して、刈株や土を取り除く。収穫時の土かみによる汚損を防止するため高刈りに心がける。土をかみ込んだ場合はコンバインのエンジン直ちに停止する。晴れた日の午前10時から午後5時ごろまでに収穫する。収穫は水分の高い朝夕を避ける。収穫適期は成熟期の7日後から14日後(子実水分16%以下)。成熟期は大部分が落葉し莢を振ると、音をたてる程度に乾燥した時期</p> <p>大豆の青立ち株や雑草は刈取前に抜き取る</p> <p>※ハスモンヨトウの発生は、隣接するほ場に被害を与えます。病害虫防除基準 参照</p> <p>用水が圃場に行き渡り次第、かん水を止める。土壌が乾燥して、しおれる恐れがある場合はうね間かん水する(夕方)夜。白変葉が目立つてきたら薬剤による一斉防除を行う。ハスモンヨトウの心化直後幼虫が群集している 病害虫防除基準 参照</p> <p>本葉4枚から5枚で行う。(倒伏防止と雑草対策) 8月10日頃までに必ず1回は実施する。本葉2枚から3枚で行う。</p> <p>出芽後は暗渠栓を閉める。乾燥が続くとアサガオが大豆より早く出芽する。5日程度で大豆は出芽する。播種後ただちに除草剤を散布する。 除草剤基準 参照</p> <p>播種時期と栽植密度 参照</p> <p>耕起・砕土 砕土を十分行う。 施肥基準 参照</p> <p>種子消毒 参照</p> <p>地力増進 麦ワラは全量すき込み・完熟堆肥の投入2t/10a pH矯正 目標pH6.0~6.5、炭酸苦土石灰100kg/10a ※pH矯正が特に必要な場合、生石灰を100kg/10a施用</p> <p>周囲溝、弾丸暗渠により排水促進(麦前に入れておくのであれば不要)排水良好で冠水の恐れがない圃場</p> <p>アサガオ類、ヒロハフウリンホオズキ、ケイトウ類</p> <p>暗渠栓閉め</p> <p>ハスモンヨトウ幼虫、幼虫、成虫、マメハンミョウ、ミナミアオカメムシ</p>																	

品種特性表 (7月10日播き)

品種名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
ちくしB5号	8月21日	11月1日	やや強	366kg	32.4g

※引用元:福岡県農林業総合試験場データ

種子消毒

対象病害等	農薬名	使用量
ハト、紫斑病	キヒゲンR-2フロアブル	種子5kgに対し100mlをまぶす

播種時期と栽植密度

品種名	ちくしB5号(1株当り2粒)	
播種期	7月5~20日(適期播)	7月21日以降~(遅播)
条間(cm)	65cm	
株間(cm)	25~20cm	20~15cm
10a当り播種量(kg)	4.0~5.0kg	5.0~7.0kg

※圃場が乾燥していたら5~6cmの深播きをする。通常は3cm程度とする。
※耕起後すぐに(土壌が湿っているうちに)播種する。

施肥基準

大豆作付条件	基肥		成分量			備考
	肥料名	施肥量	窒素	りん酸	カリ	
pH矯正	炭酸苦土石灰	100	-	-	-	早播は窒素分は施用しない。
適期播	PK化成40号	30	-	6.0	6.0	
連作田又は遅播	ちくごのめぐみ444	20	2.8	2.8	2.8	

※大豆種子は肥料焼けし易いので、播種と施肥位置が重ならないように注意する。

病害虫防除基準

液剤	時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	希釈水量
	発生時	8月下旬	マメハンミョウ	スミチオン乳剤	1,000倍
9月中旬		ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤	2,000倍	100~300ℓ
		ハスモンヨトウ	プロフレアSC	4,000倍	三剤混合 100~300ℓ
カメムシ類		アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍		
10月上旬	紫斑病	トップジンM水和剤	1,000~1,500倍		
	10月上旬	カメムシ類	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	100~300ℓ

無人航空機	時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	希釈水量
	8月下旬	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤	8~16倍	0.8ℓ
		ハスモンヨトウ	プロフレアSC	32倍	三剤混合 0.8ℓ
	9月中旬	カメムシ類	スタークルメイト液剤10	8倍	
紫斑病		トップジンMゾル	5倍		
10月上旬	カメムシ類	スタークルメイト液剤10	8倍	0.8ℓ	

除草剤基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	希釈水量	留意点
耕起前	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	50~100ℓ	播種前雑草が多い場合・耕起前又は出芽前までホソアオゲイトウに効果がある
	ラクサー乳剤	400~800ml	100ℓ	
	フルミオWDG	5~10g	100ℓ	
播種直後~出芽前まで	ラクサー粒剤	4~8kg	-	ホオズキ対策:ラクサー乳剤と混用
	パワーガイザー液剤	300ml	100ℓ	覆土は2~3cmとし、よく整地して鎮圧する。二重散布にならないように均一に散布する。
雑草生育期	ボルトフロアブル	200~300ml	100ℓ	ホオズキ類に効果がある。またアサガオ対策。一時的に黄化などの薬害が生じることがある。
	大豆バサグラン液剤	100~150ml	100ℓ	イネ科雑草の3~10葉期 収穫30日前まで
				イネ科を除く一年生雑草。大豆2葉期~開花期前(雑草の生育初期~6葉期) 但し収穫45日前まで

※中耕、培土による耕作的防除も併せて行う。
※フルミオWDGは、微量でも他作物に影響を与える可能性があるため散布後は専用の洗浄剤を使用し、タンクやホース・ノズルを十分に洗浄する。

***農薬購入の際は、印鑑が必要です。**
○天候・気象状況により適期管理を心がけましょう。○農薬のラベルを確認して散布しましょう。○農薬の近接作物、住宅地への飛散を防止しましょう。○作業日誌・生産工程管理チェックシートの記帳を必ず行いましょう。
この資料は、令和8年4月時点の農薬の登録状況に基づいて作成しています。農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。